

概要

- 菊池地域は、新規就農者数は県内トップクラスで多い一方、菊池地方4Hクラブ（正式名称：菊池地方青年農業者クラブ連絡協議会、以下「4Hクラブ」）は活動のマンネリ化等によりクラブ員数が減少し存続の危機。
- このため、農業普及・振興課では、令和元年度から**4Hクラブの再始動を青年農業者育成の緊急課題と位置づけ**、①課内の支援体制の強化、②緊急勧誘活動、③活動内容の見直しに着手・実行。
- その結果、**クラブ員数は着実に増加**し、クラブ活動が活性化するとともに、クラブの魅力向上、地域農業のリーダー育成にも成果。

具体的な成果

1 課の指導力等向上

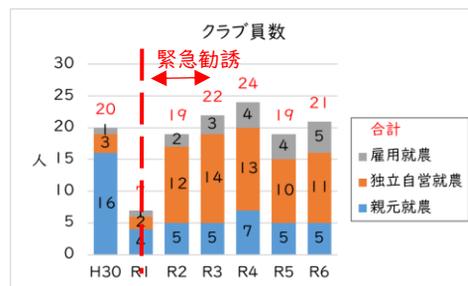
- 若手職員の人材育成につながり、課の組織としての指導力・対応力も向上

2 クラブ員数の増加

- 緊急勧誘期間の**令和元年度～2年度に15名の加入**に成功。
- 以降も年3名程度の加入を確保し、クラブ員数は着実に増加
クラブ員数 R1:7名 → 最多年(R4):24名

3 クラブ活動の活性化、人材育成

- クラブ活動数
活動数 R1:8回 → 最多年(R5):17回
- 4Hクラブ所属中に**熊本県農業コンクール新人王部門出場者(R5、R6)**や**JA菊池アスパラガス部会長等の地域農業のリーダーを輩出**するなど、**短期間で経営力向上や人材育成にも成果**



普及指導員の活動

令和元年度

- 課内支援チームを設置し、**課内全体でクラブ員を支援する体制**へと強化。
- 4Hクラブの組織運営を総括担当、各行事にも主査を配置し、チーム内の普及職員がそれぞれ役割を持つ体制を整備。

令和元年度
～令和2年度

- 4Hクラブへの**緊急勧誘期間**と位置付けて、重点的に勧誘活動。
- 関係機関が協力し、新規就農者を中心に勧誘候補者リストを作成。
- 候補者リストを基に、**クラブ員が作成した勧誘チラシを配付**し、**普及職員も勧誘活動**を実施。

令和元年度～

- 農業普及・振興課と4Hクラブの共催で新規就農者を対象とした研修会の開催開始

令和4年度～

- クラブ員自らが企画・運営する自主企画研修を開始。

普及指導員だからできたこと

- ・ これまでも4Hクラブを支援してきた普及組織としての指導・支援体制を集中的かつ重点的に強化したことで、短期間でクラブを再生。
- ・ 各々の専門技術を持つ普及職員が一体となって指導・支援を行ったことにより、短期間でクラブ員の経営力向上やリーダーとしての人材育成に成果。

存続の危機からの新生4Hクラブの再始動

活動期間：令和元年～（継続中）

1. 取組の背景

菊池地域は、県内トップクラスの新規就農者数を誇る一方、菊池地方4Hクラブ（正式名称：菊池地方青年農業者クラブ連絡協議会、以下「4Hクラブ」という）は、活動のマンネリ化や参加意欲の低下等により、クラブ員数の減少が止まらなかった。令和元年度には地域内の単位クラブの解散も重なり、クラブ員数が7名まで減少し、存続の危機に瀕した。

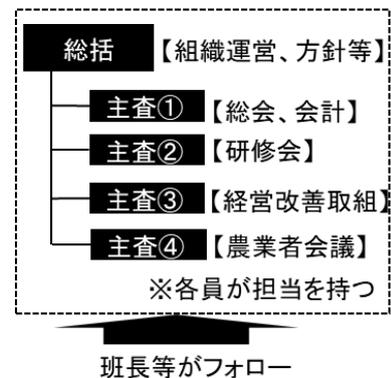
青年農業者は、将来の地域リーダーを担う重要な若手世代であり、4Hクラブという組織は、その素地づくりの場であり、組織運営を通して様々な能力を養う場として、普及組織にとっては重要な支援対象である。そのため、当課では令和元年度から青年農業者育成を緊急課題と位置づけ、4Hクラブの再始動を目指し、①普及指導体制の充実（課内体制の強化）、②クラブ員の確保（緊急勧誘活動）、③活動の魅力向上（クラブ員育成）に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) 課内の支援体制の強化

青年農業者担当職員だけでなく、課内全体でクラブ員を支援する体制へと強化した。課内支援チームを設置し、中堅職員をチームに加え、班長以上もフォローする体制とした。4Hクラブ定例会等の組織運営を総括担当が支援し、総会、研修会、農業者会議等の各行事にも主査を配置し、チーム内の普及職員がそれぞれ役割を持ち、責任感を持って対応する仕組みを整えた。

①4Hクラブ支援体制(イメージ)



(2) 緊急勧誘活動

4Hクラブの組織としての活力を取り戻すにはクラブ員数の確保が不可欠ということで、関係機関が協力し、新規就農者を中心に勧誘候補者リストを作成した。令和元年度から令和2年度を緊急勧誘期間と位置付け、候補者リストを基に、クラブ員

勧誘チラシ

が作成した勧誘チラシを配付し、普及職員も勧誘活動を行った。

(3) 活動内容の見直し

緊急勧誘の結果、クラブ員の構成が、親元就農者中心から、独立
 自営就農者や雇用就農者の割合が増加し、仲間づくりや学ぶ機会
 を強く求められるようになった。そのため、クラブ定例会でニー
 ズを把握しながら研修会や視察研修等を企画・実施することとし、
 令和4年度からは、クラブ員自らが企画・運営する自主企画研修
 を行うこととなった。

また、クラブ活動における調査研究活動「プロジェクト活動」
 を、自らの経営課題の解決に向けた「経営改善取組み」と名称を変
 更し、クラブ員が自主的に取組みやすくした。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 課の指導力等向上

4Hクラブの支援業務を役割分担したことで、若手職員の主体性、
 取組み意欲や責任感が高まり、人材育成につながるとともに、担当品
 目以外のクラブ員とも関わりも強まり、課の組織としての指導力・対
 応力も向上した。

(2) クラブ員数の増加

緊急勧誘期間の令和元年度～2年度に15名の加入に成功した。
 以降も年3名程度の加入を確保し、クラブ員数は着実に増加した（R
 1：7名→最多年（R4）：24名）。以前は先輩から後輩への勧誘
 で加入することが多かったが、現在は自ら加入を申し出るクラブ員
 が増え、加入の良い流れが形成されている。

(3) クラブ活動の活性化、人材育成

ニーズに応じた活動や自主企画研修が定着したことで、地方間交
 流や視察等の開催が増加し、4Hクラブの企画による新規就農者を
 対象とした研修会も開催されるなど、活動が活性化し、クラブの魅力
 が大幅に向上した（活動数R1：8回⇒最多年（R5）：17回）。

特に、「プロジェクト活動」が「経営改善取組み」として定着した
 ことで取組率が向上し、自身の経営改善を実現する成果が出ている。

また、4Hクラブ所属中に熊本県農業コンクール新人王部門出場
 者（R5、R6）や
 JA菊池アスパラ
 ガス部会長に選出
 される者も輩出さ
 されるなど、地域農
 業のリーダー育成
 にもつながってい
 る。

クラブ員数及び活動実績の推移

		R1	R2	R3	R4	R5	R6
活動・ 指標	勧誘期間	緊急勧誘		継続勧誘			
	クラブ員数※1	7	19	22	24	19	21
	確保人数※1	+12	+3	+4	+2	+3	+3
	活動内容	ニーズ把握		研修会等		自主企画研修を追加	
	経営改善取組率※2	71%	50%	57%	82%	81%	89%
	活動数※3	8	8	9	12	17	16

※1 クラブ員数は各年度4月時点。確保人数は各年度の加入人数で、退会者が生
 じるため、合計しても次年度4月時点でのクラブ員数と一致しない場合がある。

※2 経営改善に向けた取組みを実施したクラブ員の割合

※3 クラブ員が企画・参加した活動数



県農研センター視察

魅力ある 企画・研修



クラブ員園地視察



定例会での検討



ニューファーマー
研修会



菊池地方青年農業者会議
in 県立農業大学校



**農業普及・振興課
一体となった支援**

4. 農家等からの評価・コメント（4Hクラブ 緒方前会長）

課全体で私たちをサポートするという姿勢がクラブ員の意識を変化させたと思います。特に自主企画研修での支援は、クラブ員の主体性を高め、活動の活性化に繋がったと感じています。

5. 普及指導員のコメント（県北広域本部農業普及・振興課 藤本）

4Hクラブ存続の危機というところから、歴代の担当者が当時の会長と連携して積極的に活動した結果が、活動の魅力向上や普及指導体制の充実等良い形として表れていると感じます。

今後も、4Hクラブへの充実した支援体制を継続することで地域農業のリーダーの育成に繋がっていきたいと考えます。

6. 今後の展開等

4Hクラブへの支援強化は、クラブ員の経営力向上、短期間での地域リーダーの育成などの成果が表れるとともに、普及指導員の資質向上にもつながる好循環が生まれている。今後も普及指導体制を充実し、クラブ員の自主性を重んじた活動を積極的に展開する。

また、新規就農者が地域で孤立しないよう、4Hクラブをコミュニティ形成の中核として強化することで、地域の若手農家の結束力を高め、将来の地域農業の維持・発展につなげていく。